

## フォトレッスン「モノクロ写真のすすめ」

平成 31 年度 春の例会

講師 県本部副委員長 古怒田 潔

本稿は 2014 年 4 月～6 月まで、フォトアサヒに掲載し、2015 年に東京都本部、2016 年千葉県本部で「全日本モノクロ写真展」の作品を使い、プレゼンテーションを行ったが、本日はそれをベースにお話をする。ポイントは「モノクロ写真は、どういう被写体を撮ったらいいのか、どういうふうな撮り方、仕上げ方をしたらいいのか」ということ。また、「全日本モノクロ写真展」も従来の「光と影」という仕上げ方本位から、今を撮るという内容重視に変わってきているということもあり、2018 年の「第 17 回全日本モノクロ写真展」の作品も触れながら、この数年間でどのように変わってきたのか、お話する。

### ■「モノクローム」には独自の表現力がある

- ・自然の風景はカラーでは現実にあるままだが、それをモノクロに変えるというのは、その作業そのものが抽象的な作業で、モノクロは既に合成、加工の段階を経ている。
- ・よくモノクロは事物の本質や内容を捉えるということで、記録としての写真の一方で芸術性、心象的な風景を表現するのに適している写真の形態である、と言われている。
- ・荒木経惟さんは「カラーは肉体、モノクロは精神」と言っているが、カラーは表面だけどモノクロは内側である、ことが言える。

### ■モノクロ写真の特徴

どんな被写体がモノクロ写真にふさわしいのか。

#### 1. 光と影

モノクロと言えば「光と影」。そういうものを捉えるのに適した写真の表現形態。光、光る物、逆光線、こういうものは非常に写真的と言われている。



(写真 1) 12 回展

雨上がりにランナーがスタート地点でウォームアップしているところで、逆光と雨あがりの光、そして向こうに池が光っている、という光と影の典型的な写真。

吉田義一（埼玉）



(写真2) 13回展

逆光のお祭りの写真。着ている衣装が逆光で光っている。白い衣装なので光が反射して黒い影が光を際立たせている。

諏訪博明 (山口)



(写真3) 13回展 最優秀賞

「静かな湖面」という題だが、東南アジアの川で子供が木から飛び込む瞬間を捉えた写真。光と影の代表的な作品。

花木義孝 (三重)

## 2. 構成写真 形あるもの

「形を捉える」、というものがモノクロ写真には向いている。点と線、直線と曲線で構成されるようなもの。無彩色が多彩な色彩を想像させるもの。



(写真4) 12回展

新しい東京駅を上の方から撮影したもの。形の面白さ。東京駅の色も見た人が想像できるもので、非常に奥行きのある写真。

山内久枝 (東京)



(写真5) 17回展

カラスの形が面白い。飛んでいるカラスもいて変化を与えている。線と形と下で白く光っているものも際立っていて美しい。

柳川武春 (神奈川)



(写真6) 17回展

ラジオ体操をやっている野球部の選手達の形の面白さ。白と黒の石垣のトーンが非常にモノクロ向き。色をつけても綺麗ではないということでモノクロにしたと思う。

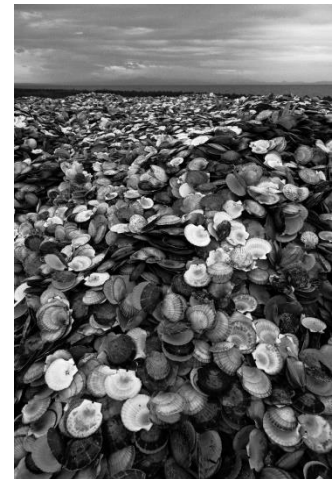
藤井雅春（大阪）



(写真7) 17回展

革靴が光沢で光っているところ。奥行きが真っ黒で、棚の線が面白い形を作っている。

清水克機（千葉）



(写真8 = 右) 17回展

ディテールに非常にグラデーションがあって貝の形は同じだがそれぞれのむきが違って面白。

福田修逸（青森）

(写真9 = 右)

17回展 アサヒカメラ賞

鈴木寛（静岡）

とても面白い写真。従来の光と影とは大きく離れているし、点と線としてもありふれた写真。この写真は合成でも加工でもなく、コンビニのガラス(窓)の曲がり角を曲がった瞬間を撮ったもので、ガラスに反射し左右対称に映っている。露出もアンダーで、見かけるとふさわしくない貧相な感じがする写真ではあるが、内容として「その一瞬を捉えた」写真。意表を突いた、意外性のある写真。「今を撮る」という言葉は現代を撮るという意味で流行語ではあるが、新しいこれからのモノクロ写真ではないかなと思う。



### 3. 表情

表情ということで、色を捨てることで、その表情が浮かび上がるのもモノクロ写真の特徴。肖像写真、スナップでも顔の表情が引き立つ。



(写真 10) 12 回展

子供がいろいろな着物を着ているが、多彩な着物でどんな色がいっぱいあるのか、想像するだけで楽しい。想像力を掻き立てるが顔の表情の方が引き立っている。着物の色に惑わされない写真。「期待と不安」という画題も想像力を掻き立てる。

田沼清昭（埼玉）



(写真 11) 13 回展

かごに子供が乗っているがフォトジェニックで、目にキャッチアイも入っており、構図も影も素晴らしく、完成度の高いポートレート。

江連康晴（栃木）



(写真 12) 17 回展 準特選 水谷寛（三重）

ポートレート、人物写真はキャッチアイを入れないといけな  
いと言われているが、この写真はそれを無視している。頭に  
置いてあるのは父親の手だと思うが、主題は父親と子供の愛  
情関係、人間関係。子供が何を見ているかは主題ではない。  
期待と不安とは関係なく、親との愛情を姉妹のポートレート  
から出している。



(写真 13) 17 回展

外人のタトゥーの写真。黒人はモノクロ的に奥行きのある写真が撮れる。

古怒田潔（埼玉）

#### 4. 雨の日

雨の降る日は撮るものがないのではと思っていたが、「光る物から白い物」ということを、ずいぶん前に坂巻時子さんから教えていただいた。太陽だと1点が光源だが、雲は全体が光源になり、影のディテールが全部出て素晴らしい。



(写真 14) 10 回展 準特選

アパートから飛び出した瞬間。写真の仕上げはどうということはないが、男の子が遅刻しそうで慌てて出ていく、瞬間的なものがよく出ている。

本杉芳一（静岡）

(写真 15 右) (作例) 古怒田  
佐原の撮影会で大雨の時、白いものを撮る、ということ  
を思い出して撮った。



(写真 16 左) 17 回展  
傘をさして白い服を着ている  
ということで典型的な写真。

塚田容三（東京）



(写真 17) 17 回展

周りがうす暗い所に白い馬がいるところ。白を表現するにはモノクロしかない。カラーで白い物を撮るのはあまり絵にならない。モノクロだと白はすばらしい画題となり、白い馬を見つけると撮るようにしているがなかなか機会がない。

高塩定男（栃木）

## ハイキーとローキー

ハイキーはあまりみかけないが、非常に清潔感があって、爽快感がある。白昼夢というかオリンパスのディドリームというアートフィルターがあるが、そういう印象を与える。黒主体の中に、鋭く光る部分。ローキーは重厚な写真です。こちらは最近よく見かけます。



(写真 18)

坂巻先生の(画集「モノクローム讃歌」の表紙の写真)

渡良瀬遊水地の写真。黒から白ではなく、ライトグレーからダークグレーという狭い範囲でいろいろなグラデーションが出ていて、素晴らしい。黒の点景が引き締めている。

(写真 19=右) 17 回展  
下から霧が吹きだして、  
親子ずれが楽しんでいる様  
子を撮っている。



杉岡常久 (広島)



(写真 20) 17 回展 最優秀賞 山田興亜 (広島)

ボルダリングの写真。背景の壁は黒ではなくおそらくブルーか赤だろう。それをモノクロで黒にした、これがこの作品の勝因だ。上の丸いものに飛びついて、次に行くところをプレイヤーが考えているところ。今、飛ぼうとしているため、非常に筋肉に力が入って盛り上がっている。だたのローキーの写真ではなく内容も伴っている。

(写真 21 = 右) 17 回展 準特選  
尾原和徳 (島根)

従来のローキーの写真で、光る部分を入れて真っ暗な中に浮かび上がらせている。コーヒーか何かを焙煎している場面。



(写真 22) 17 回展

バックがローキーのためしぶきが上がっている。形がきれいな作品。  
大澤秋良 (埼玉)



#### ■モノクロ写真の撮り方

##### 1. カメラはカラー設定で

何もわからない人はカメラをモノクロ調の設定にするとモノクロの世界になるので、これがよい、これがどうだ、と見ることができる。ただ、分かっている方はカラーの設定で。色温度とダイナミックレンジ、多彩な色も8ビット256色のJPEGより、12ビットのRAWで4096色。RAWは色の空間が大きくなり、モノクロ化するとき、豊富なグラデーションが使える。

##### 2. 適正な露出で

- ・最大の難関ではあるが、最近のミラーレスでは電子ファインダーで撮るべき写真の露出がわかるので、ずいぶん楽だ。
- ・クロマイ・シロップという言葉は死語となり、暗い時や明るい時の補正はカメラが全部、平均測光でやってくれる。
- ・HDRという、カメラがいろんな部分の適正露出を合成して出す機能があるので、ブラケットをやらなくても撮れるような状況だ。
- ・白とびだけは気を付けた方がよい。フィルムと違いデジタルは白とびに弱く、高感度は伸びているが低感度は64位で止まっている。フィルムは32などもありフィルムに及ば

ないのがデジタルで、白くとんでしまうとどうにもならない。

(写真 23)

(作例) 古怒田

3枚撮って合成した写真が下の写真。1枚の写真で Photoshop のレイヤーであぶりだしをやってもこのようにはいかない。三脚で3枚撮って合成するというのは明暗差が大きい場合は



必要だ。

3. ストロボを使う (写真 24) (作例) 古怒田

撮影の時に誰かとぶつかり少し傾いており、まわりの人がぶれているが、ダイナミックな感じでは撮れている。



(写真 25) 13 回展 全日写連賞

お祭りを素晴らしくダイナミックに撮っている。スローシャッターでストロボを使うというのもモノクロの撮り方の大きな特徴だ。



和田知久 (広島)



(写真 26=右) 13 回展  
秩父の獅子舞を撮影したもの。

吉田和夫 (埼玉)



#### 4. フィルターの使用

使っている人はいないと思うが、IR フィルター (インフラレッド=赤外線透過ゼラチンフィルター) というものがある。赤くなるので、モノクロしか使えない。



(写真 27) (作例) 古怒田

東日本大震災直後の茨城県鹿島港。凄い雲が出ていたので、30 秒位で撮影した。ゼラチンフィルターは安い。レンズの枠に切り抜いて貼り付けて使うが、とても面白い。赤外線も有害光線なのでカメラの中で除去するようになっているが、ニコンなどは赤外線にわずかに感光し長秒間露出で赤外線フィルムで撮ったような写真ができる。

#### ■モノクロ写真の仕上げ方

##### 1. 画像補正でモノクロ転換・フィルターの効用

以前はモノクロ転換の時は彩度を下げるとか、グレースケールを使うとかで、モノクロ転換していたが、今は白黒を選べばモノクロに転換できる。モノクロフィルムで撮影するときは、フィルターを常用していた。黄色と赤のフィルター。赤のフィルターを付けると別世界が開けて、モノクロの世界だと思った。疑似夜景といいますが、空も真っ黒になる。花も木の緑もすっかり白っぽくなり、迫力のある風景が展開した。仕上げで、現像ソフトのフィルターツールを使うことが今のモノクロに転換する時に大事な作業となる。

オリンパスのカメラの設定でモノクロ調で内臓フィルターを使って撮影してみたものとカラーで撮影し、現像ソフトでモノクロ転換したものとを比較した。

(ア)モノクロ調で撮影、フィルター効果をみる

(作例 古怒田)



元画像 (写真 28)

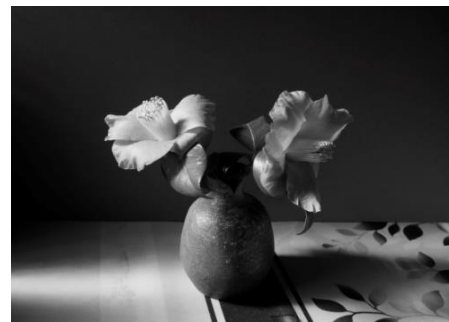


フィルターなし (写真 29)

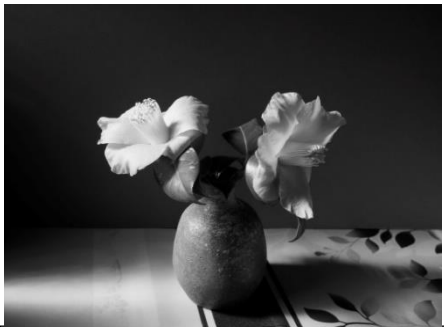
黄色のフィルター。花が少し明るくなる



黄色のフィルター (写真 30)



オレンジのフィルター (写真 31)



赤のフィルター (写真 32)



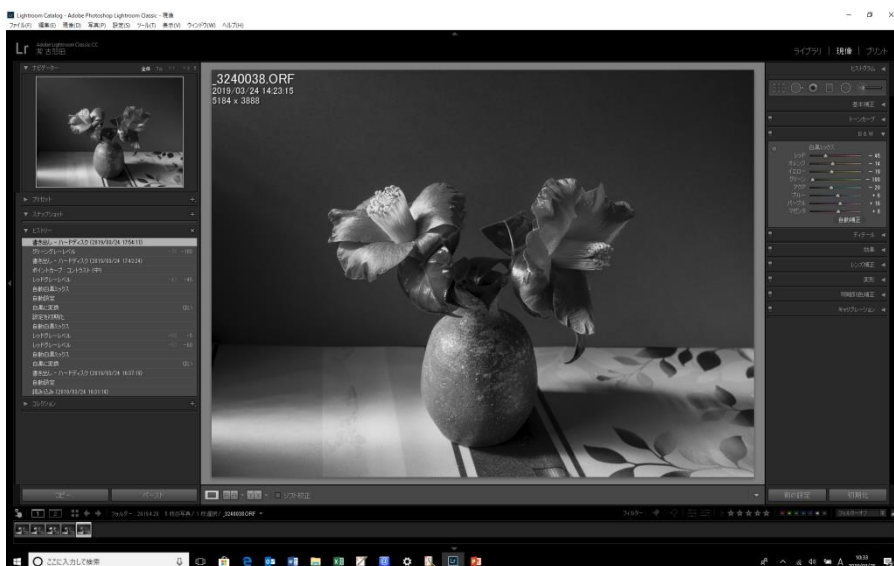
グリーンのフィルター (写真 33)

比較するとグリーンフィルターがモノクロとしてふさわしい表現ができる。

(イ) カラーで撮影したものを Lightroom でモノクロ変換。カラーデータからモノクロ変換は、基本補正で階調、露光の調整、トーンカーブでコントラストをつけて、B&W・白黒ミックスで 8 種類のスライダーあり、右左に動かし気に入ったようにモノクロを作る、というのが作り方の基本だ。これが PhotoshopCC でも 6 種類しかない。2 種類多い Lightroom の方がモノクロ向きだと言われるのはこういうところにもあるのではないか。

(写真 34)

- ・Lightroom で作った写真。右側に白黒ミックスの8本のスライダーがある。これを動かすと色によってモノクロの明るさが変わる。一番左に来ているのがグリーン。イエロー、赤は少し動かして作っている。この作業がモノクロを作る時に一番楽しい作業だ。なるべくグラデーションを多く、椿の花と葉をどう差をつけるか、花瓶との差をどうつけるか、同じ明るさの色を同じモノクロの明度にしない、ということが大事だ。色彩に合った表現でそれぞれの階調を決めていく。微妙なやり方でできる。



(写真 34)

- ・レンズフィルターは反対の色（補色）を暗くして、同系色を明るくする、という効果がある。赤だと赤い花は白っぽくなり、青い空は真っ黒になる。lightroom のスライダーは一色づつ色別に明るいところから暗いところまで、直線的に変化させることができる。カラーで撮影したものを RAW 画像ソフトでモノクロ化した方が、多彩な色情報を使い、豊かなグラデーションのあるモノクロ写真を作成できる。

## 2. 焼き込みと覆い焼き

焼き込みと覆い焼きは、フィルムからきた言葉。周辺光量を減らすと、視線を中央に集中させる効果があり、一時は大流行りした。今はあまりまわりが真っ黒なのは「モノクロ写真展」でも避けられる恐れがある。



(写真 35) 17回展 特選

まわりを少し焼き込んである。2018 年の入賞は全部で 80 点あったが、まわりを焼き込んでいるのはほとんどなかった。

青柳征三(千葉)

(写真 36=右) 17 回展

これは焼き込んだというより、こういう光の具合。

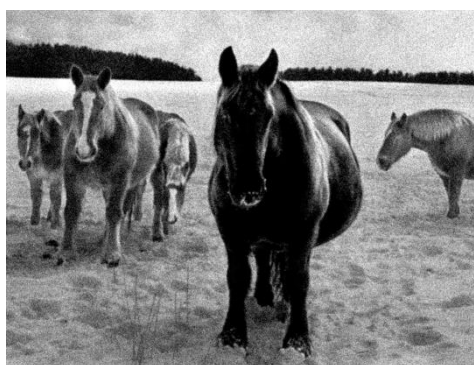
菊地博子(埼玉)



### 3. 粒子を加える

カラーですとノイズということで拒否されていたが、心象的な表現としてモノクロの伝統的な表現とするには、粒子を加えることもある。立体的、シャープさを加える。

(写真 37) (作例) 古怒田



雪の中の寒立馬。左側の写真が非常にのんびりとした写真だったため、粒子を加え、荒々しさを表現した。

### 4. (モノクロ専用) プラグインソフトを使う

Silver Efex Pro Nick Collection。プラグインで photoshop cc に連動して、そのまま展開、補正ができるもの。コントラスト、解像度、色調などモノクロ独特の持ち味を増幅して表現できる。

(写真 38) 作例 吉田弘(埼玉)



右側は青空が美しいという感じだが、重苦しさ、何かの予兆の感じを出したいのでモノクロにして左のようにおどろおどろしい感じを出した。

■まずはモノクロ写真を撮りましょう！

最後に、一番重要なこと。

第 18 回全日本モノクロ写真展 5 月 31 日締切りに応募してください。

以上